

図 29-1. 活動・休息援助技術における技術到達レベル

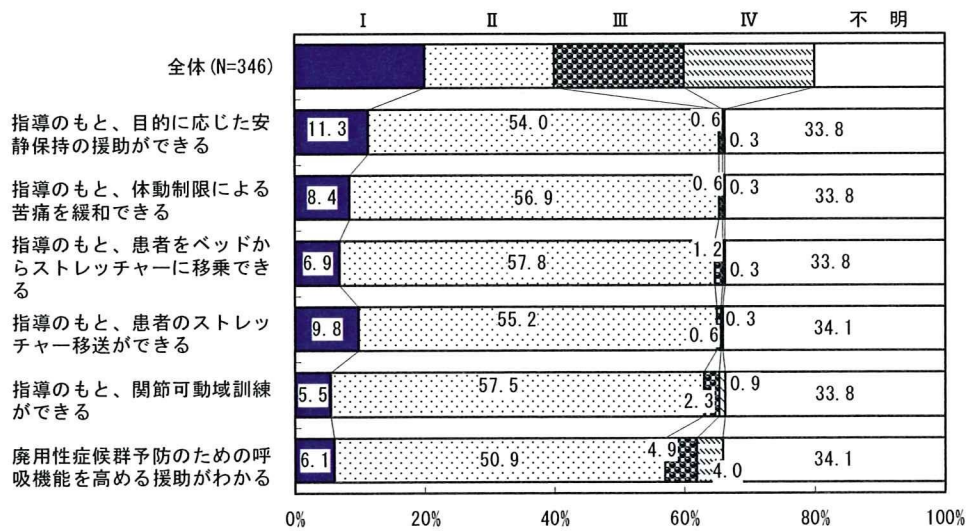


図 29-2. 活動・休息援助技術における技術到達レベル

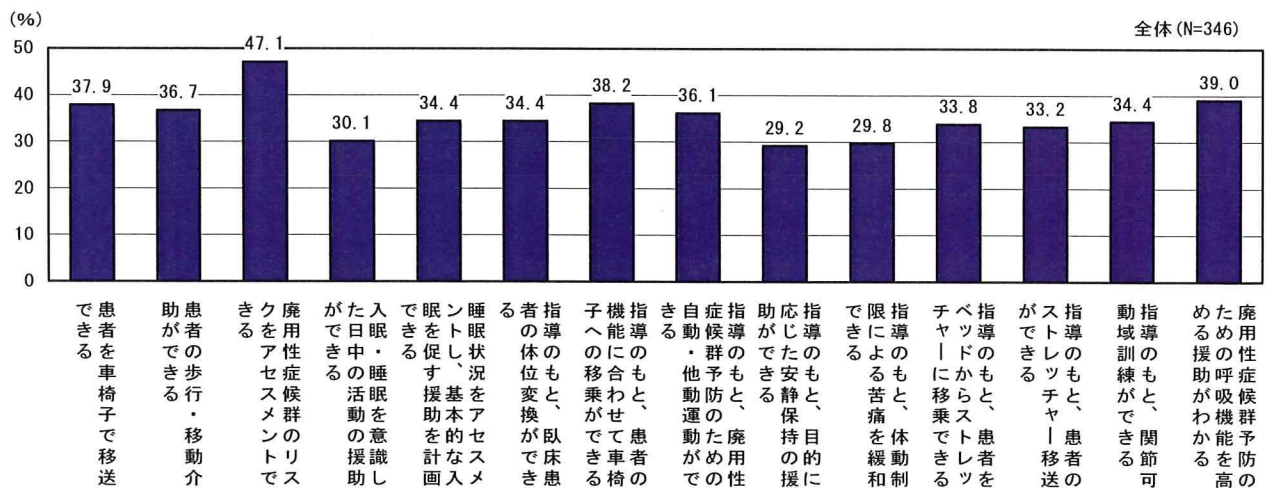


図30. 出題が必要と考える重要な活動・休息援助技術項目

### ⑤ 清潔・衣生活援助

図31に示したが、達成度レベルIが最も高い結果は「患者が身だしなみを整えるための援助ができる」(64.2%)、次いで「洗髪援助を通して患者の観察ができる」(62.1%)、「清拭援助を通して、患者の観察ができる」および「患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる」(いずれも61.8%)、「輸液ライン等が入っていない臥床患者の衣類交換ができる」(60.7%)、「入浴が生態に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる」および「口腔ケアを通して、患者の観察ができる」(いずれも60.4%)の順となっていた。

図32に示したが、出題すべき項目として、「入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる」(42.8%)が最も高く、次いで、「口腔ケアを通して患者の観察ができる」(38.4%)、「輸液ライン等が入っていない臥床患者の寝衣交換ができる」および「指導のもと、輸液ライン等が入っている患者の寝衣交換ができる」(いずれも37.3%)、「清拭援助を通して、患者の観察ができる」(36.4%)などの順となっていた。到達レベルが高い項目と出題すべき項目とが一致していた。

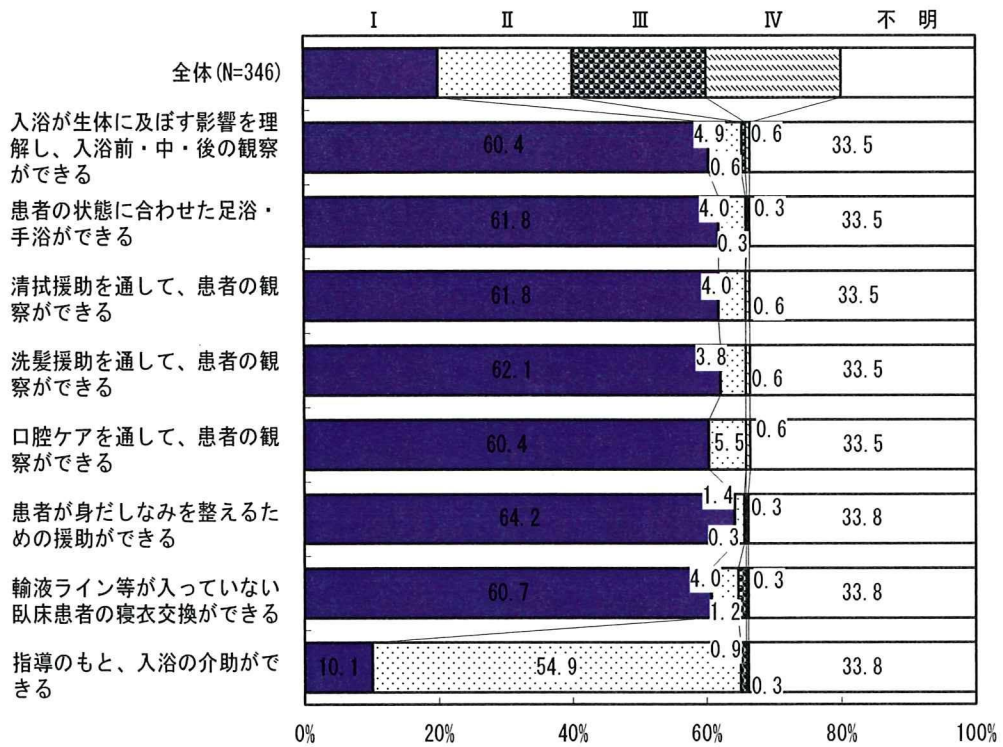


図 3 1 - 1. 清潔・衣生活援助技術項目における技術到達レベル

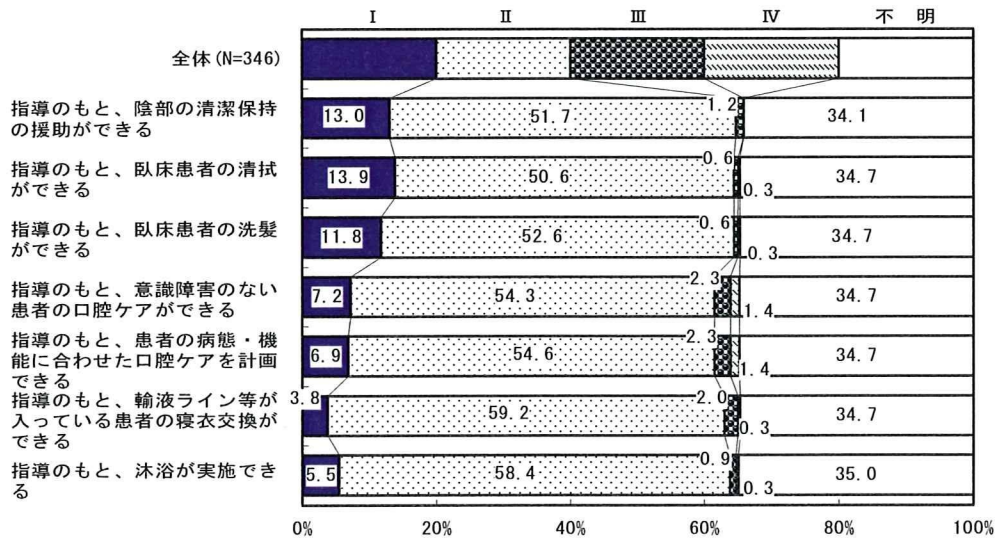


図 3 1 - 2. 清潔・衣生活援助技術項目における技術到達レベル

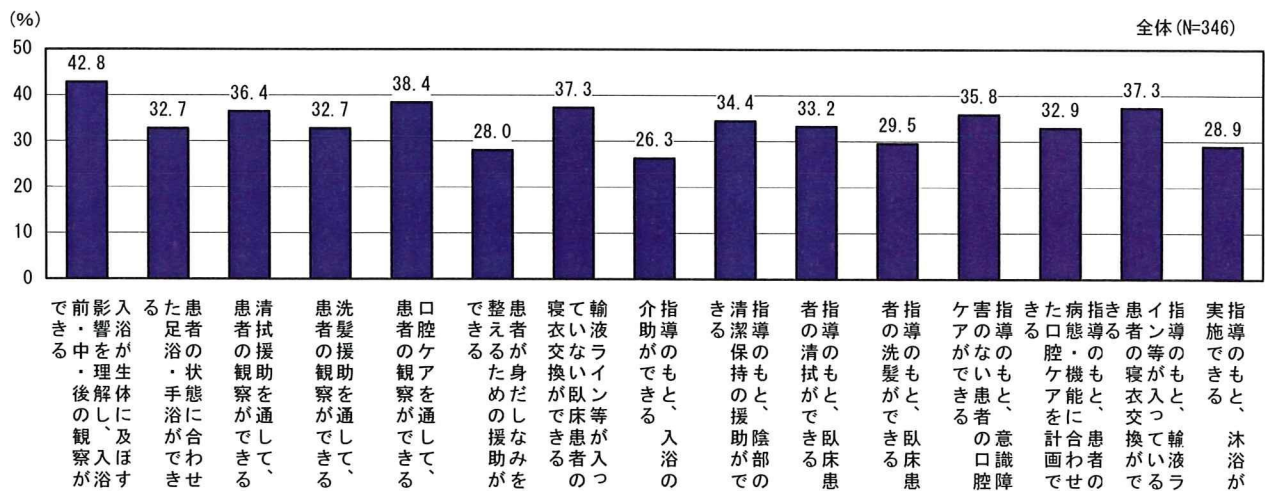


図 3 2. 出題が必要と考える重要な清潔・衣生活援助技術項目

### ⑥ 呼吸循環を整える技術

図 3 3 に示したが、達成度レベル I が最も高い結果は「患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法が実施できる」(61.0%)であり、次いで「患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる」(60.7%)、「酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる」(58.4%)、「末梢循環を促進するための部分浴・マッサージができる」(56.6%)の順となっていた。

図 3 4 に示したが、出題すべき項目として、「酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる」(46.8%)が最も高く、次いで、「循環機能のアセスメントの視点がわかる」(41.0%)、「気管内吸引時の観察点がわかる」(40.8%)、「指導のもと、酸素吸入療法が実施できる」(39.9%)などの順となっていた。

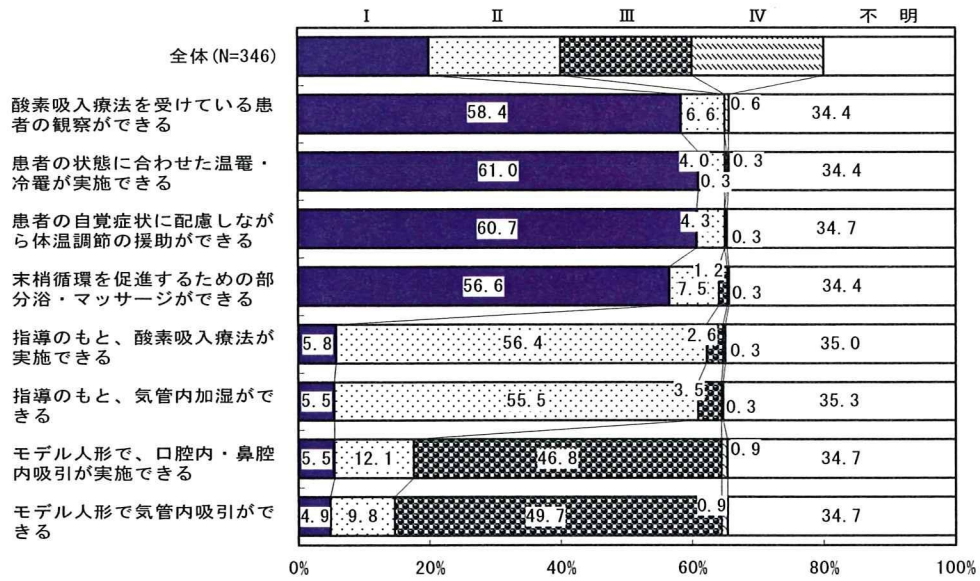


図 3 3 - 1. 呼吸循環を整える技術における技術到達レベル

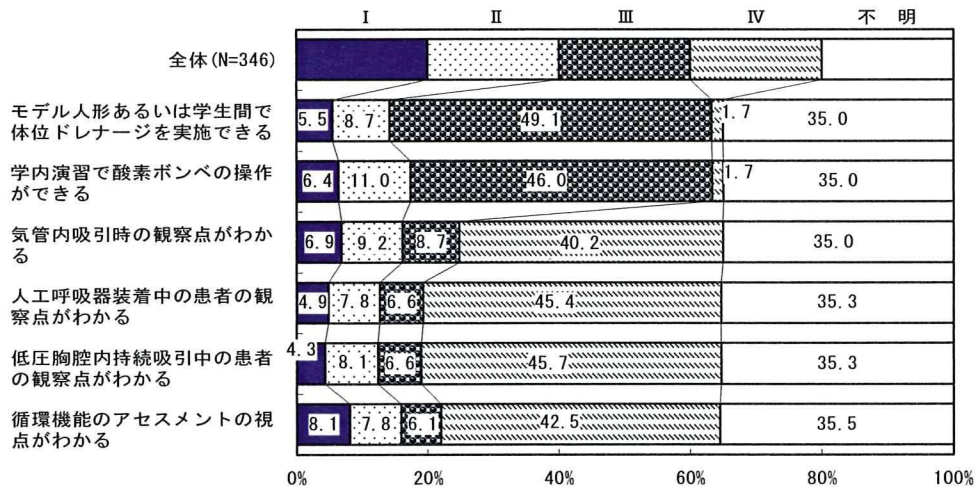


図 3 3 - 2. 呼吸循環を整える技術における技術到達レベル

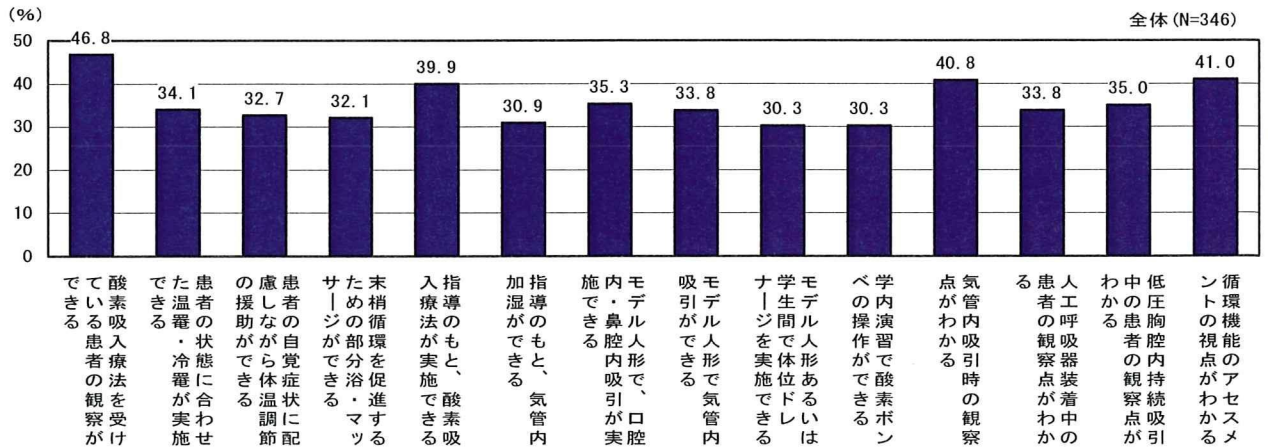


図 3 4. 出題が必要と考える重要な呼吸循環を整える技術項目

### ⑦ 褥瘡管理技術

図35に示したが、達成度レベルIが最も高い結果は「患者の褥瘡発生をアセスメントできる」(57.2%)である。この他は割合が低く、「指導のもと患者褥瘡予防のためのケアが計画できる」(10.4%)、「学生間で基本的な包帯法が実施できる」(9.2%)の順となっていた。

図36に示したが、出題すべき項目として、「患者の褥瘡発生をアセスメントできる」(49.4%)が最も高く、次いで、「指導のもと、患者の褥瘡の観察ができる」(37.0%)、「指導のもと、患者の褥瘡予防のためのケアが計画できる」(36.7%)などの順となっていた。

到達レベルが高い項目と出題すべき項目とが一致していた。

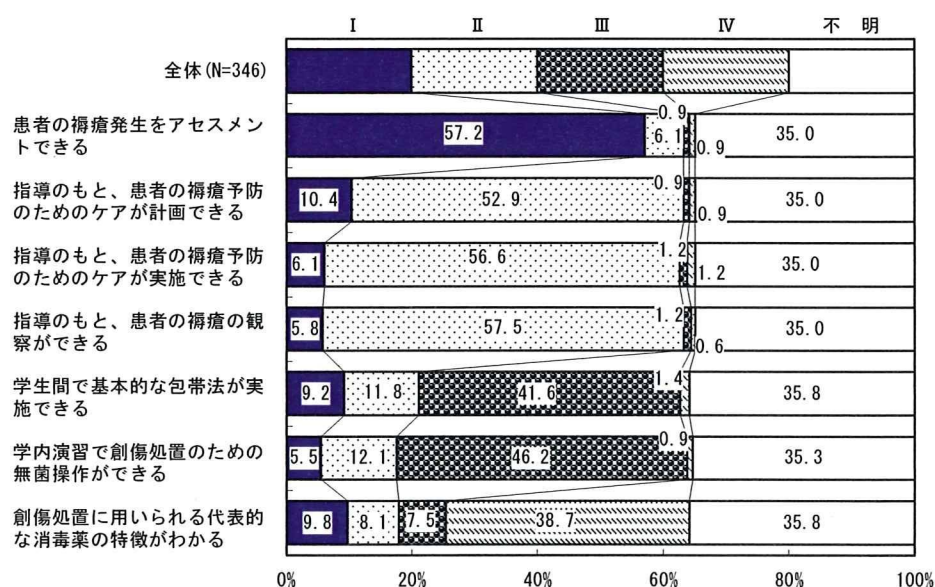


図35. 褥瘡管理技術における技術到達レベル

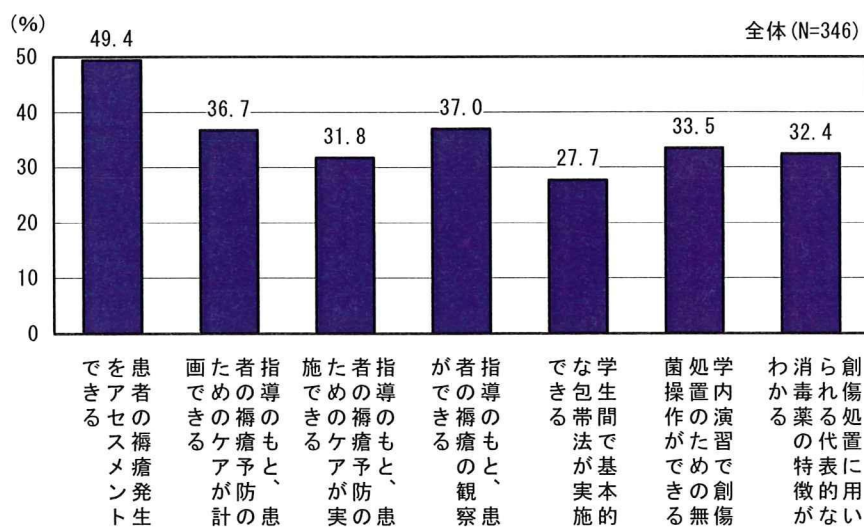


図 3 6. 出題が必要と考える重要な褥瘡管理項目

⑧ 与薬の技術

図 3 7 に示したが、レベル I の達成度はどの項目においても低く、卒業時の達成度としてレベル I の到達までは求められていなかった。

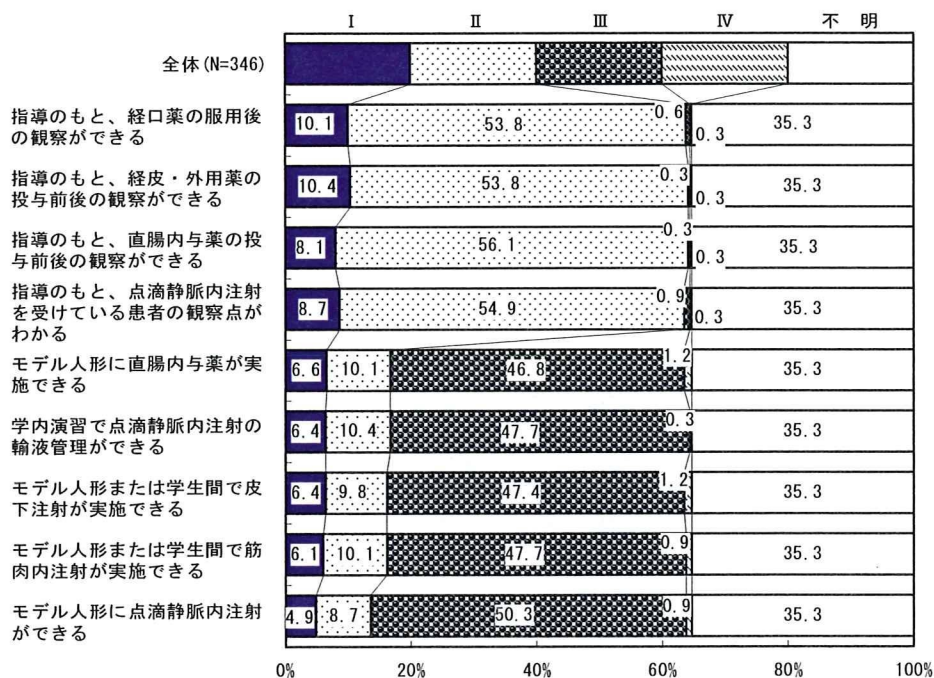


図 3 7 - 1. 与薬の技術における技術到達レベル

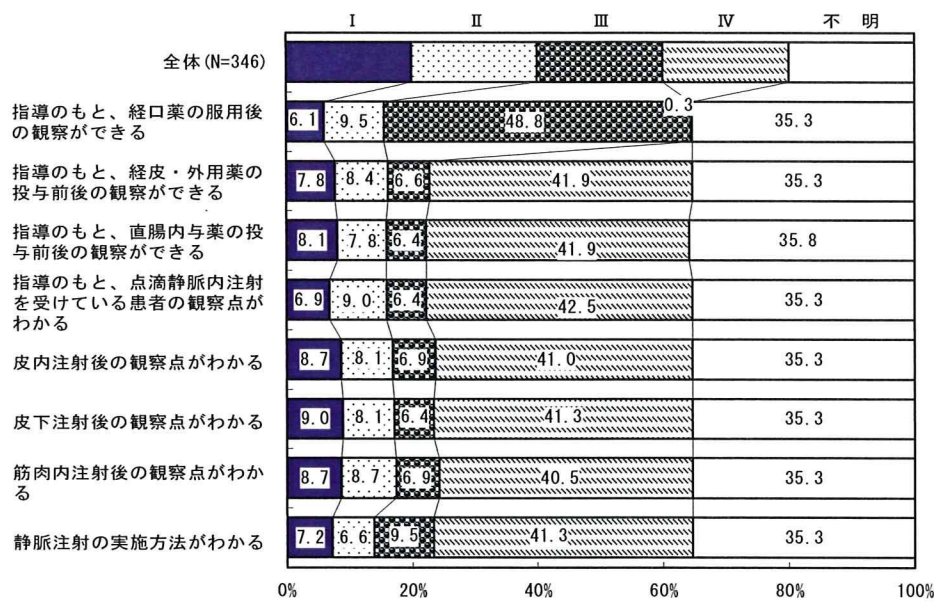


図 3 7 - 2. 与薬の技術における技術到達レベル

図 3 8 に示したが、出題すべき項目として、「指導のもと、点滴静脈注射を受けている患者の観察点がわかる」(44.8%) が最も高く、次いで、「インシュリン製剤を投与されている患者の観察点がわかる」(43.6%)、「薬理作用をふまえて静脈内注射の危険性がわかる」(42.8%)、「中心静脈内栄養を受けている患者の観察点がわかる」(42.2%) などの順となっていた。

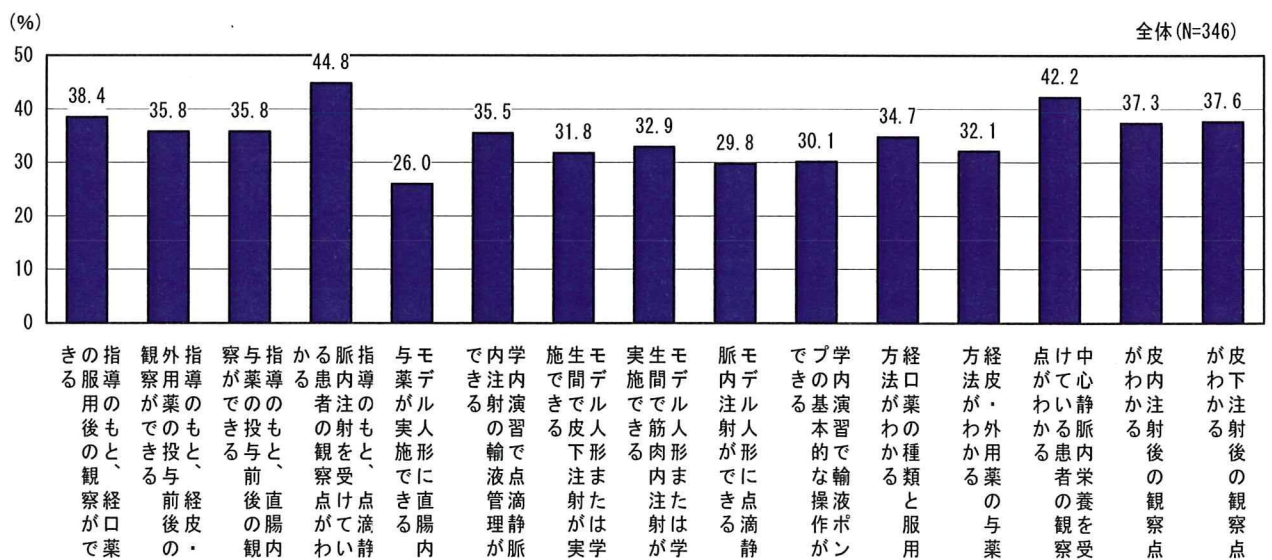


図 3 8 - 1. 与薬の技術における技術到達レベル



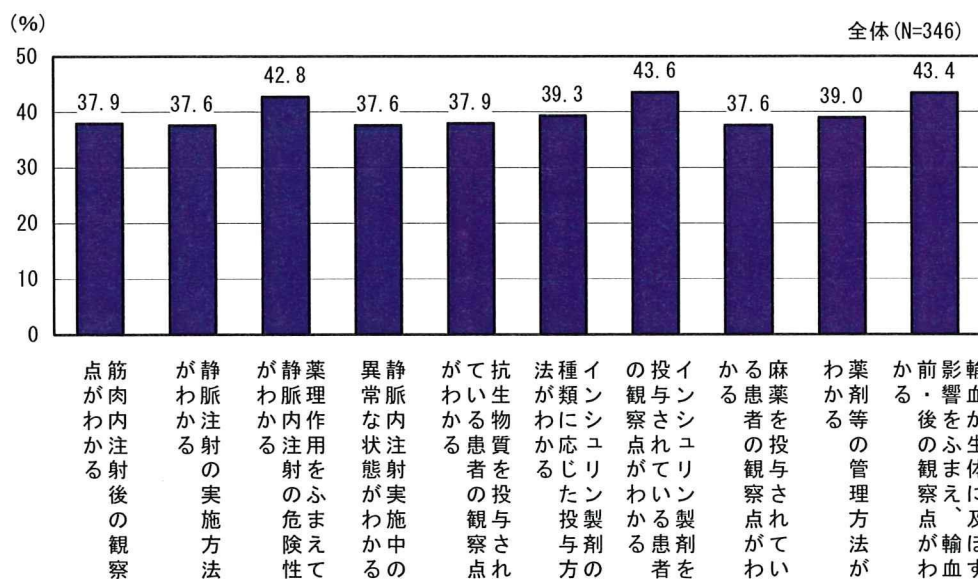


図38-2. 与薬の技術における技術到達レベル

⑨ 救命救急処置技術

図39に示したが、達成度レベルIが最も高い結果は「緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる」(59.8%)であった。この他は割合が低く、「意識レベルの把握方法がわかる」(8.7%)、「指導のもと患者の意識状態を観察できる」(8.4%)の順となっていた。

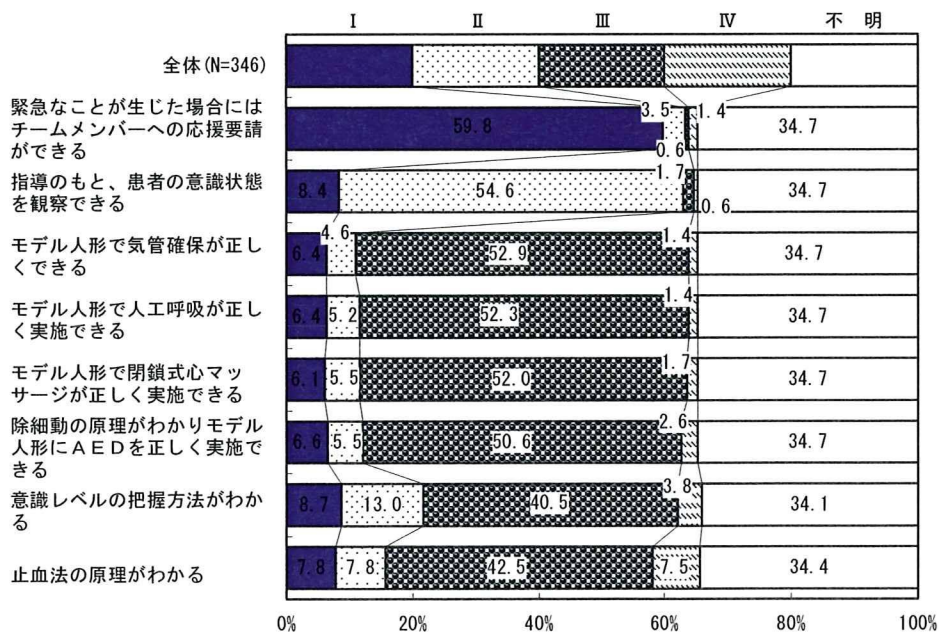


図39. 救命救急処置技術における技術到達レベル

図40に示したが、出題すべき項目として、「意識レベルの把握方法がわかる」(45.7%)が最も高く、次いで「指導のもと、患者の意識状態を観察できる」(43.4%)などの順となっていた。到達レベルが高い項目と出題すべき項目とが一致していた。

救命救急処置に関する援助技術の卒業時到達レベルは、応援要請を行うという現実的に可能なレベルであった。しかし、国家試験で出題する内容は、緊急の状態であるかを判断するために必要なアセスメントを問う内容であった。

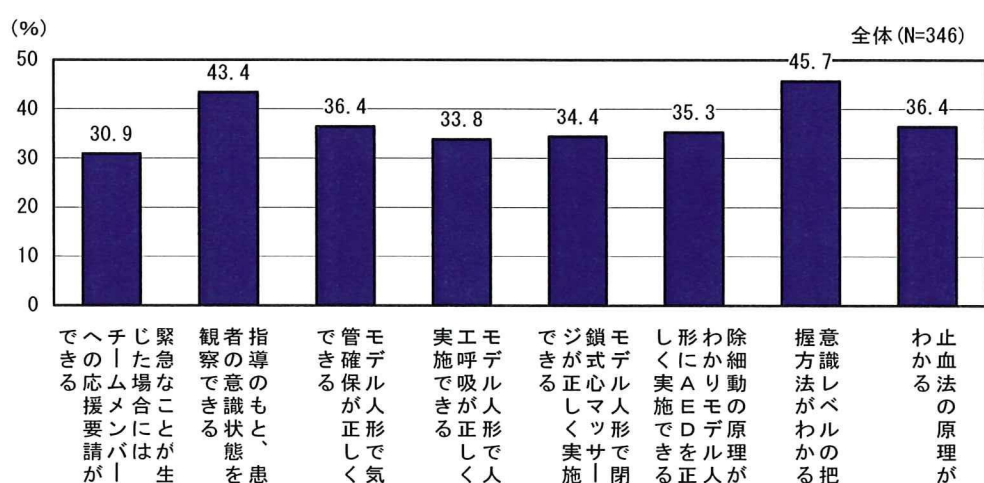


図40. 救命救急処置技術における技術到達レベル

⑩ 症状・生体機能管理技術

図41に示したが、達成度レベルIが最も高い結果は、「バイタルサインが正確に測定できる」(64.2%)、次いで「正確に身体計測ができる」(63.8%)、「患者の一般状態の変化に気付くことができる」(61.8%)の順となっていた。

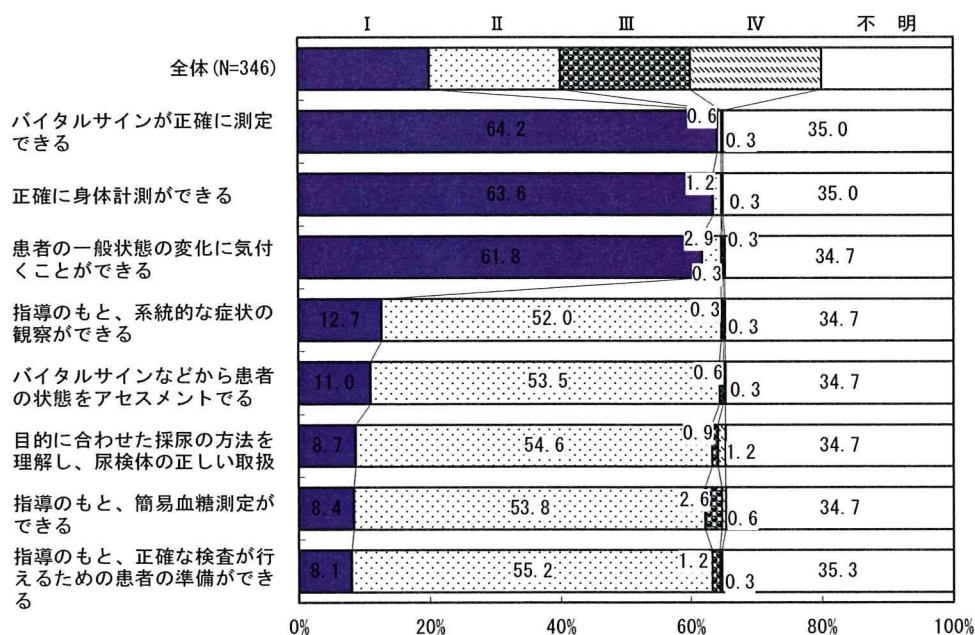


図 4 1 - 1. 症状・生体機能管理技術における技術到達

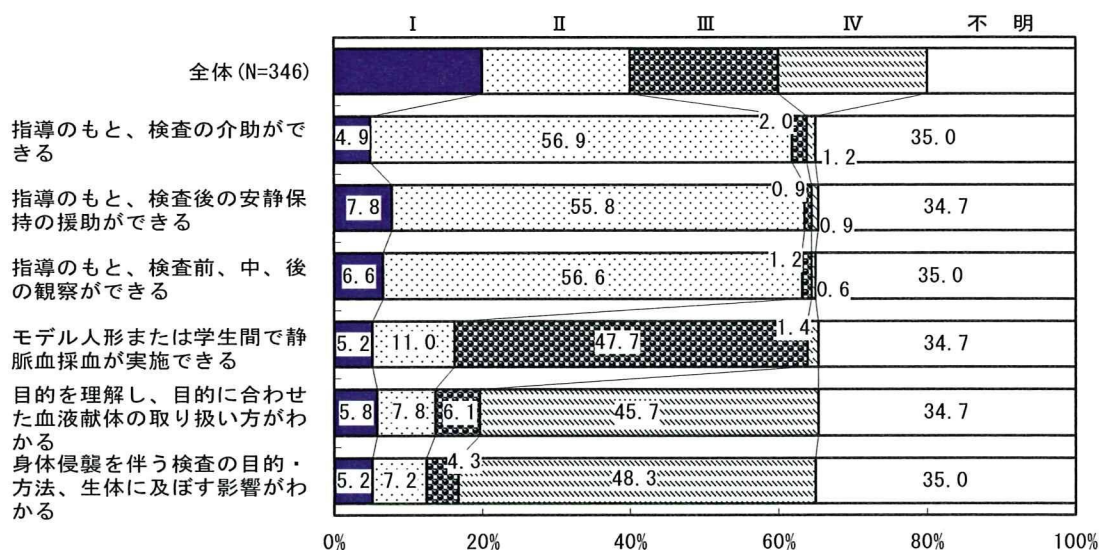


図 4 1 - 2. 症状・生体機能管理技術における技術到達

図 4 2 に示したが、出題すべき項目として、「バイタルサインを正確に測定できる」(46.2%) が最も高く、次いで、「バイタルサインなどから患者の状態をアセスメントできる」(43.9%) などの順となっていた。やはり、身体状態を正確に把握し、アセスメントに必要な技術が出題すべき項目として高率を示していた。

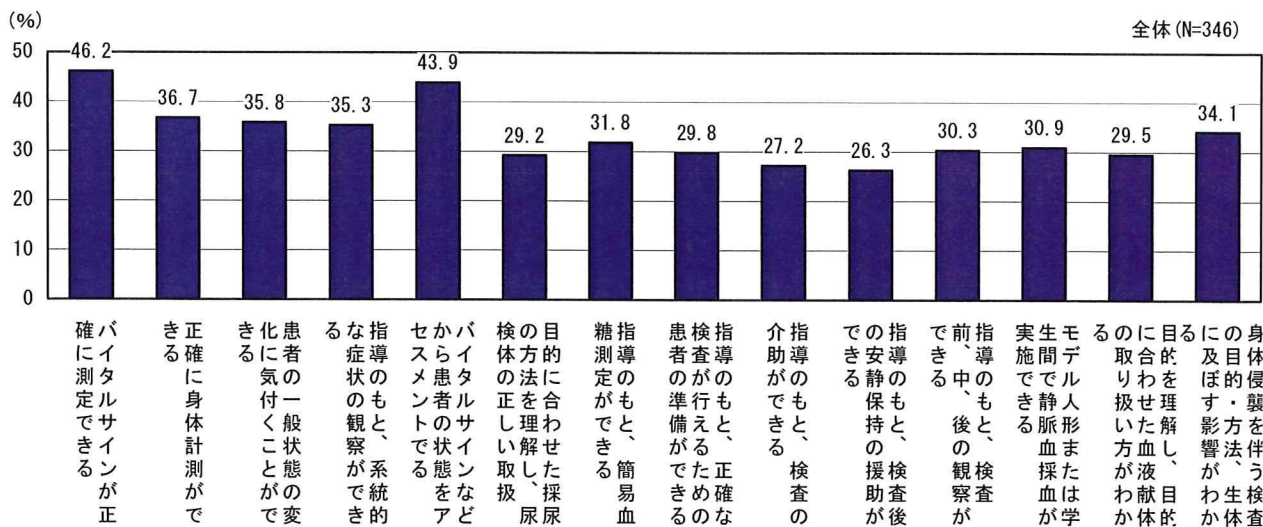


図 4 2. 症状・生体機能管理技術における技術到達レベル

⑪ 感染予防の技術

図 4 3 に示したが、達成度レベル I が最も高い結果は、「スタンダード・プリコーションに基づく手洗いが実施できる」(63.3%)であった。この他は割合が低く、「指導のもと、必要な防護用具の装着ができる」(16.5%)、「指導のもと、使用した器具の感染防止の取り扱いができる」(14.2%)の順となっていた。

図 4 4 に示したが、出題すべき項目として、「スタンダード・プリコーションに基づく手洗いが実施できる」(47.4%)が最も高く、次いで「指導のもと、無菌操作が確実にできる」(39.9%)、「指導のもと、使用した器具の感染防止の取り扱いができる」(39.6%)、「指導のもと、感染性廃棄物の取り扱いができる」(38.2%)などの順となっていた。やはり、到達レベルが高い項目と出題すべき項目とが一致していた。

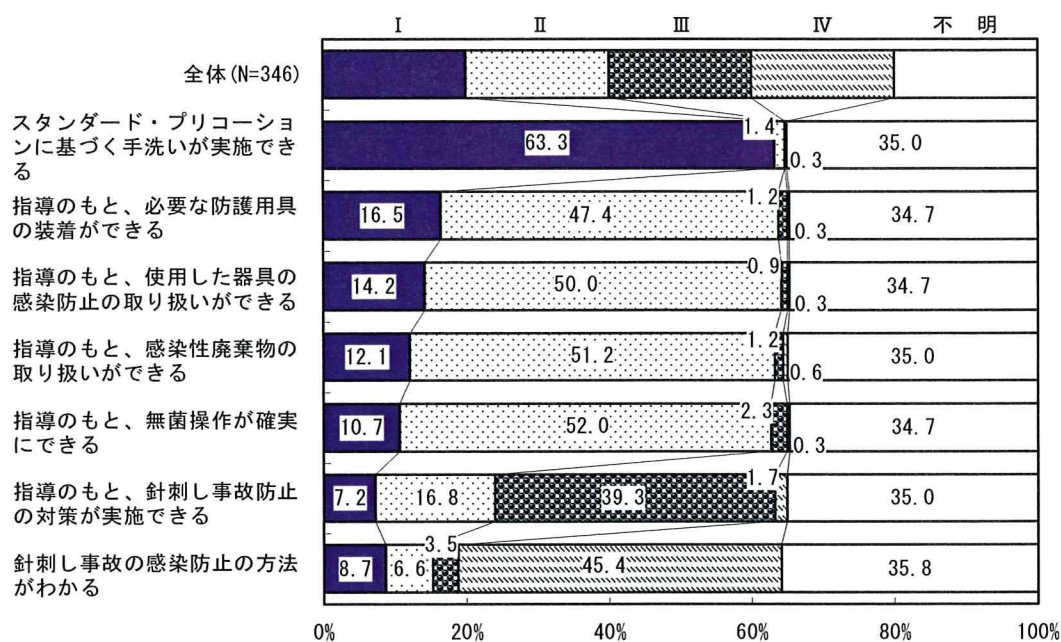


図 4 3. 感染予防の技術における技術到達レベル

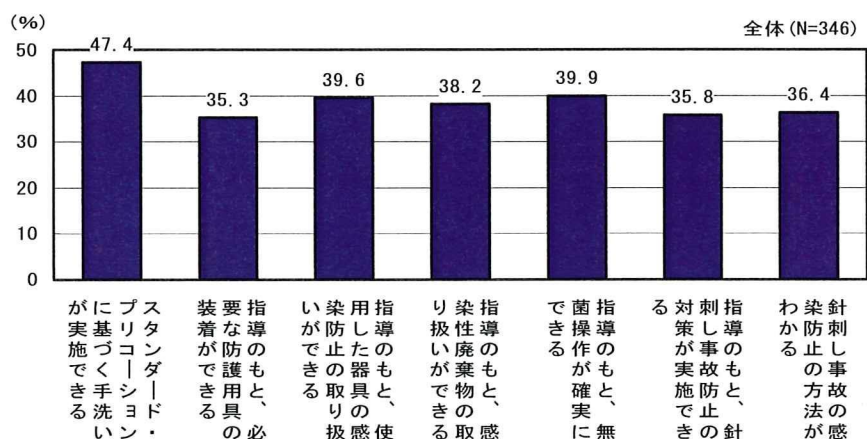


図 4 4. 感染予防の技術における技術到達レベル

⑫ 安全管理の技術

図 4 5 に示したが、達成度レベル I が最も高い結果は、「インシデント・アクシデントが発生した場合、速やかに報告できる」(62.4%)、次いで「患者を誤認しないための防止策を実施できる」(60.7%)、「災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる」(60.1%) の順となっていた。

図46に示したが、出題すべき項目として、「患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる」(38.4%)が最も高く、次いで、「患者を誤認しないための防止策を実施できる」(38.2%),「インシデント・アクシデントが発生した場合、速やかに報告できる」(35.3%)などの順となっていた。

到達レベルが高い項目と出題すべき項目とが一致していた。

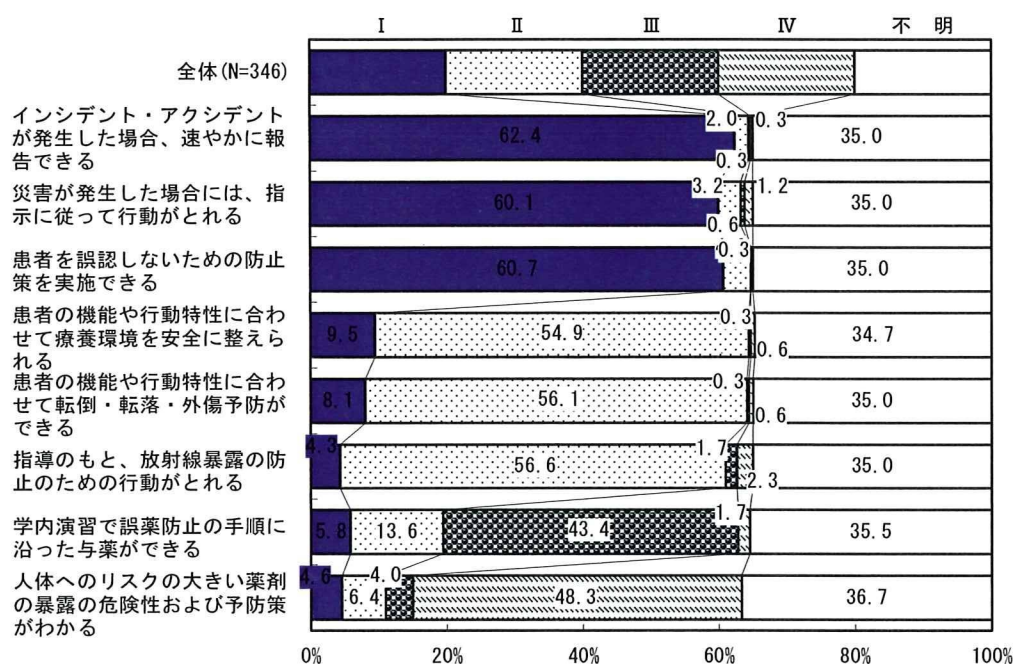


図45. 安全管理の技術における技術到達レベル

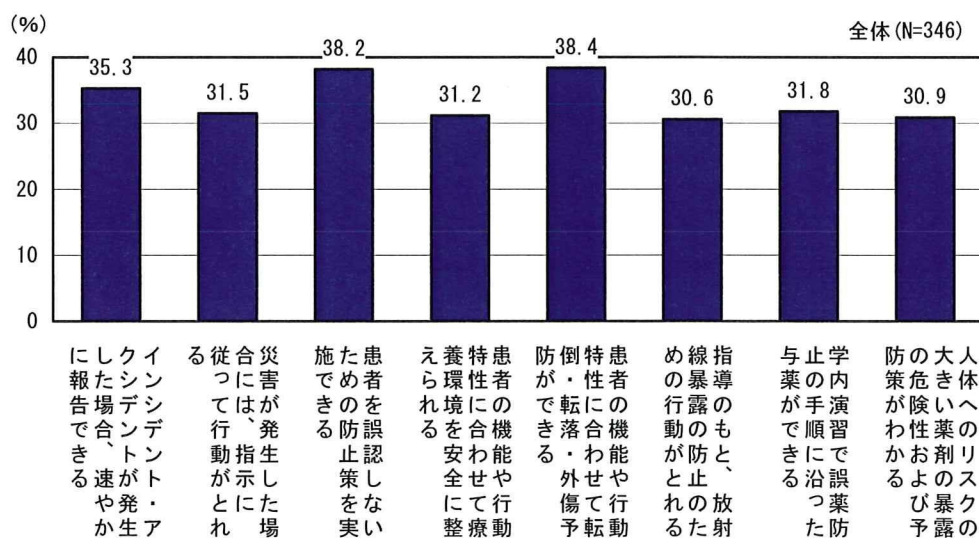


図46. 安全管理の技術における技術到達レベル

⑬ 安楽確保の技術

図47に示したが、達成度レベルIの達成度は3項目とも低い割合となっていた。3項目のなかでは「患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる」(13.9%)が最も高かった。

図48に示したが、出題すべき項目として、「患者の状態にあわせて安楽に体位を保持することができる」(38.4%)が最も高く、次いで「指導のもと、患者の安楽を促進するためのケアができる」(34.1%)、「指導のもと、患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる」(33.8%)の順となっていた。到達レベルが低い項目であるが、出題すべき項目としては比較的高率であった。

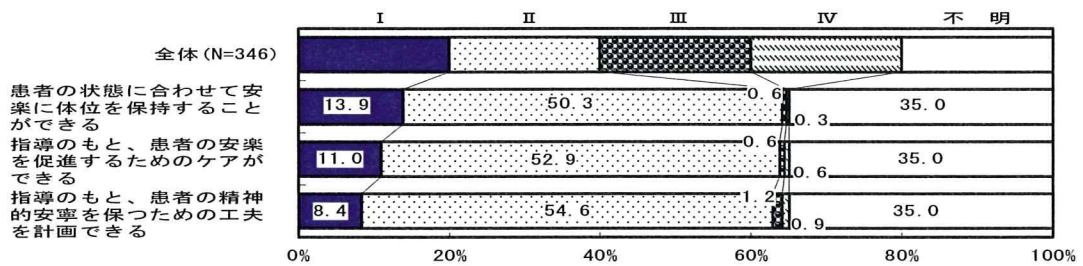


図47. 安楽確保の技術における技術到達レベル

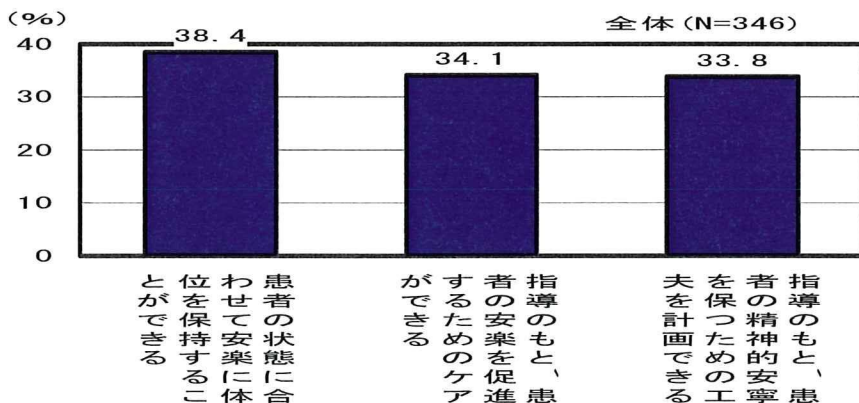


図48. 安楽確保の技術における技術到達レベル

7) 必須問題としての出題が望ましいと考える項目について

20%以上の人が必要と返答した必須問題としての出題が望ましいと考える項目を表1に示した。項目は41項目あった。

表 1. 必須問題としての出題が望ましいと考える項目 (20%以上の項目)

技術項目	%
患者にとって快適な病床環境を作ることができる	25.7
患者の状態に合わせて食事介助ができる	20.5
患者の食事摂取状況をアセスメントできる	28.9
経管栄養学を受けている患者の観察ができる	23.4
電解質データの基準値からの逸脱がわかる	20.5
自然な排便を促すための援助ができる	26.3
自然な排尿を促すための援助ができる	25.7
患者に合わせた便器・尿器を選択肢、排泄援助ができる	20.8
膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	25.1
指導のもと、患者のカテーテル固定、ルート確認などができる	21.4
患者を車椅子で移送できる	27.5
患者の歩行・移動介助ができる	25.7
廃用性症候群のリスクをアセスメントできる	29.5
入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	20.2
入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	26.9
患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	20.2
清拭援助を通して、患者の観察ができる	25.1
洗髪援助を通して、患者の観察ができる	20.8
口腔ケアを通して、患者の観察ができる	26.6
酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	35.3
患者の状態に合わせた温罨・冷罨が実施できる	23.1
患者の褥瘡発生をアセスメントできる	37.0
指導のもと、経口薬の服用後の観察ができる	22.0
指導のもと、点滴静脈内注射を受けている患者の観察点がわかる	26.0
経口薬の種類と服用方法がわかる	20.2
中心静脈内栄養を受けている患者の観察点がわかる	20.5
インシュリン製剤を投与されている患者の観察点がわかる	22.5
輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・後の観察点がわかる	21.4
緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	20.2
指導のもと、患者の意識状態を観察できる	23.4
意識レベルの把握方法がわかる	30.1
バイタルサインが正確に測定できる	41.9
正確に身体計測ができる	27.2
患者の一般状態の変化に気付くことができる	22.5
バイタルサインなどから患者の状態をアセスメントできる	21.4
スタンダード・プリコーションに基づく手洗いが実施できる	43.1
指導のもと、使用した器具の感染防止の取り扱いができる	20.8
指導のもと、無菌操作が確実にできる	22.8
インシデント・アクシデントが発生した場合、速やかに報告できる	24.0
患者を誤認しないための防止策を実施できる	24.6
患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	21.1



表2. 看護技術項目の卒業時到達度レベルと看護師国家試験出題基準

■卒業時の達成度レベル

I:単独で実施できる II:指導のもとで実施できる III:学内演習で実施できる IV:知識としてわかる

技術の種類		卒業時の到達度	国家試験出題基準						
			分野	目標	大	中	小		
1	環境調整技術	患者にとって快適な病床環境を作ることができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	3 2	A A	b a	病室環境 環境の調整
		基本的なベッドメイキングができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	3 2	A A	a b	ベッド 病床の整備
		看護師・教員の指導のもとで、臥床患者のリネン交換ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	3 2	A A	a b	ベッド 病床の整備
2	食事の援助技術	患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	A B	b c	食事介助の方法 摂食行動のアセスメントと援助方法
		患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	I II III IV	基礎看護学	II	2	B	c	摂食行動のアセスメントと援助方法
		経管栄養法を受けている患者の観察ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 2	A B	b e	経管栄養法 経管栄養法
		看護師・教員の指導のもとで、患者の栄養状態をアセスメントできる	I II III IV	基礎看護学	II	2	B	b	栄養状態の評価
		看護師・教員の指導のもとで、患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	I II III IV	基礎看護学	II	2	B	d	病人の食事
		看護師・教員の指導のもとで、患者の個性を反映した食生活の改善を計画できる	I II III IV	基礎看護学	II	2	B	d	病人の食事
		看護師・教員の指導のもとで、患者に対して、経鼻胃カテーテルからの流動食の注入ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 2	A B	b e	経管栄養法 経管栄養法
		モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 2	A B	b e	経管栄養法 経管栄養法
		電解質データの基準値からの逸脱がわかる	I II III IV	人体の構造と機能	I II	1	C	b	体液の電解質
患者の食生活上の改善点が見える	I II III IV	基礎看護学	II	2	B	d	病人の食事		
3	排泄援助技術	自然な排便を促すための援助ができる	I II III IV	基礎看護学	II	2	C	c	自然な排便を促す援助方法
		自然な排尿を促すための援助ができる	I II III IV	基礎看護学	II	2	C	c	自然な排便を促す援助方法
		患者に合わせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	B C	a d	床上排泄 床上排泄の援助方法
		膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	I II III IV	成人看護学	IV	9	B	c	膀胱留置カテーテル時の管理
		看護師・教員の指導のもとで、ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	I II III IV	基礎看護学	II	2	C	a	排泄行動のアセスメントと援助方法
		看護師・教員の指導のもとで、患者のおむつ交換ができる	I II III IV	基礎看護学	II	2	C	d	床上排泄の援助方法
		看護師・教員の指導のもとで、失禁をしている患者のケアができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	B C	e d	失禁のケア 尿失禁・便失禁の種類と援助方法
		看護師・教員の指導のもとで、膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、ルート確認、感染予防の管理ができる	I II III IV	基礎看護学 成人看護学	II IV	2 9	C B	g c	導尿・膀胱留置カテーテル 膀胱留置カテーテル時の管理
		モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	B C	b f	導尿 導尿
		モデル人形にグリセリン浣腸ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	B C	c e	浣腸 浣腸
		失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護がわかる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	B C	e d	失禁のケア 床上排泄の援助方法

技術の種類		卒業時の到達度	国家試験出題基準						
			分野	目標	大	中	小		
3	排泄援助技術	基本的な排便の方法、実施上の留意点が見える	I II III IV	必修問題	IV	2	B	d	排便
		ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点が見える	I II III IV	必修問題 成人看護学	IV IV	2 9	B D	f b	ストーマ造設患者のケア 人工肛門造設術後の合併症予防と生活指導
4	活動・休息援助技術	患者を車椅子で移送できる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	D F	b d	移動・移送 車いすへの移動・移送
		患者の歩行・移動介助ができる	I II III IV	必修問題	IV	2	D	b	移動・移送
		廃用性症候群のリスクをアセスメントできる	I II III IV	必修問題	IV	2	D	c	廃用性症候群の予防
		入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	D G	a b	睡眠 安楽な休息・睡眠を促す援助方法
		患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	D G	a b	睡眠 安楽な休息・睡眠を促す援助方法
		看護師・教員の指導のもとで、臥床患者の体位変換ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	E F	b b	体位変換の基本 体位変換
		看護師・教員の指導のもとで、患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	D F	b d	移動・移送 車いすへの移動・移送
		看護師・教員の指導のもとで、廃用性症候群予防のための自動・他動運動ができる	I II III IV	必修問題	IV	2	D	c	廃用性症候群の予防
		看護師・教員の指導のもとで、目的に応じた安静保持の援助ができる	I II III IV	基礎看護学	II	1	E	b	安楽な姿勢
		看護師・教員の指導のもとで、体動制限による苦痛を緩和できる	I II III IV	基礎看護学	II	1	E	b	安楽な姿勢
		看護師・教員の指導のもとで、患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	D F	b e	移動・移送 輸送車への移動・移送
		看護師・教員の指導のもとで、患者のストレッチャー移送ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	D F	b e	移動・移送 輸送車への移動・移送
		看護師・教員の指導のもとで、関節可動域訓練ができる	I II III IV	成人看護学	IV	8	B	d	関節可動域訓練時の適応と原則
		廃用性症候群予防のための呼吸機能を高める援助が見える	I II III IV	必修問題	IV	2	D	c	廃用性症候群の予防
5	清潔・衣生活援助技術	入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	I II III IV	必修問題	IV	2	C	a	入浴の介助
		患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	C D	e b	部分浴 身体各部の清潔の援助方法
		清拭援助を通して、患者の観察ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	C D	b b	清拭 身体各部の清潔の援助方法
		洗髪援助を通して、患者の観察ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	C D	d b	洗髪 身体各部の清潔の援助方法
		口腔ケアを通して、患者の観察ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	C D	c b	口腔ケア 身体各部の清潔の援助方法
		患者が身だしなみを整えるための援助ができる	I II III IV	必修問題	IV	2	C	g	整容
		輸液ライン等が入っていない臥床患者の寝衣交換ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	C E	h c	寝衣交換 寝衣の交換
		看護師・教員の指導のもとで、入浴の介助ができる	I II III IV	必修問題	IV	2	C	a	入浴の介助
		看護師・教員の指導のもとで、陰部の清潔保持の援助ができる	I II III IV	必修問題	IV	2	C	f	陰部洗浄

技術の種類		卒業時の到達度	国家試験出題基準						
			分野	目標	大	中	小		
5	清潔・衣生活援助技術	看護師・教員の指導のもとで、臥床患者の清拭ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	C D	b b	清拭 身体各部の清潔の援助方法
		看護師・教員の指導のもとで、臥床患者の洗髪ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	C D	d b	洗髪 身体各部の清潔の援助方法
		看護師・教員の指導のもとで、意識障害のない患者の口腔ケアができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	C D	c b	口腔ケア 身体各部の清潔の援助方法
		看護師・教員の指導のもとで、患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計画できる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	C D	c b	口腔ケア 身体各部の清潔の援助方法
		看護師・教員の指導のもとで、輸液ライン等が入っている患者の寝衣交換ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	2 2	C E	h c	寝衣交換 寝衣の交換
		看護師・教員の指導のもとで、沐浴が実施できる	I II III IV	基礎看護学	II	2	D	b	身体各部の清潔の援助方法
6	呼吸循環を整える技術	酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	F B	a f	酸素吸入時の原則 酸素吸入
		患者の状態に合わせた温電法・冷電法が実施できる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	E D	a e	電法の種類と適応 電法
		患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	I II III IV	基礎看護学	II	3	D	d	保温
		末梢循環を促進するための部分浴・電法・マッサージができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	E D	b e	温電法の方法 電法
		看護師・教員の指導のもとで、酸素吸入療法が実施できる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	F B	a f	酸素吸入時の原則 酸素吸入
		看護師・教員の指導のもとで、気管内加湿ができる	I II III IV	成人看護学	IV	1	B	f	吸入療法、胸腔ドレナージの管理
		モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	G B	a e	口腔・鼻腔吸引 吸引(口腔・鼻腔・気管・胸腔)
		モデル人形で気管内吸引ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	G B	b e	気管内吸引 吸引(口腔・鼻腔・気管・胸腔)
		モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージを実施できる	I II III IV	必修問題	IV	4	G	c	体位ドレナージ
		学内演習で酸素ポンベの操作ができる	I II III IV	必修問題	IV	4	F	b	酸素ポンベの取り扱い
		気管内吸引時の観察点がわかる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	G B	b e	気管内吸引 吸引(口腔・鼻腔・気管・胸腔)
		人工呼吸器装着中の患者の観察点がわかる	I II III IV	基礎看護学	II	1	D	b	誤作動・誤認の防止、転倒転落の防止、人工呼吸器管理
低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点がわかる	I II III IV	基礎看護学 成人看護学	II IV	3 9	B B	e e	吸引(口腔・鼻腔・気管・胸腔) 吸入療法、胸腔ドレナージの管理		
循環機能のアセスメントの視点がわかる	I II III IV	成人看護学	IV	2	A	c	身体所見、自律神経反射、心電図所見の正常性		
7	褥創管理技術	患者の褥瘡発生の危険をアセスメントできる	I II III IV	必修問題	IV	2	D	d	褥瘡の予防
		看護師・教員の指導のもとで、褥瘡予防のためのケアが計画できる	I II III IV	必修問題	IV	3	D	d	褥瘡の予防
		看護師・教員の指導のもとで、褥瘡予防のためのケアが実施できる	I II III IV	必修問題	IV	4	D	d	褥瘡の予防
		看護師・教員の指導のもとで、患者の創傷の観察ができる	I II III IV	基礎看護学	II	3	B	g	包帯法と創傷管理
		学生間で基本的な包帯法が実施できる	I II III IV	基礎看護学	II	3	B	g	包帯法と創傷管理

技術の種類		卒業時の到達度	国家試験出題基準						
			分野	目標	大	中	小		
7	創傷管理技術	学内演習で創傷処置のための無菌操作ができる(ドレーン類の挿入部の処置も含む)	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	3 3	C B	c g	無菌操作 包帯法と創傷管理
		創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴がわかる	I II III IV	基礎看護学	II	3	B	g	包帯法と創傷管理
8	与薬の技術	看護師・教員の指導のもとで、経口薬(パッカル錠・内服薬・舌下錠)の服薬後の観察ができる	I II III IV	基礎看護学	II	3	C	a	薬剤の作用・投与量・投与方法(薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む)
		看護師・教員の指導のもとで、経皮・外用薬の投与前後の観察ができる	I II III IV	基礎看護学	II	3	C	a	薬剤の作用・投与量・投与方法(薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む)
		看護師・教員の指導のもとで、直腸内与薬の投与前後の観察ができる	I II III IV	基礎看護学	II	3	C	a	薬剤の作用・投与量・投与方法(薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む)
		看護師・教員の指導のもとで、点滴静脈内注射を受けている患者の観察点がわかる	I II III IV	基礎看護学	II	3	C	a	薬剤の作用・投与量・投与方法(薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む)
		モデル人形に直腸内与薬が実施できる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	B C	a c	与薬方法 与薬法
		学内演習で点滴静脈内注射の輸液管理ができる	I II III IV	必修問題	IV	4	C	abd	刺入部位の観察、滴下速度、安全・安楽
		モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	B C	a c	与薬方法 与薬法
		モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	B C	a c	与薬方法 与薬法
		モデル人形に点滴静脈内注射ができる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	B C	a c	与薬方法 与薬法
		学内演習で輸液ポンプの基本的な操作ができる	I II III IV	必修問題	IV	4	C	b	輸液ポンプの取り扱い
		経口薬の種類と服用方法がわかる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	B C	a c	与薬方法 与薬法
		経皮・外用薬の与薬方法がわかる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	B C	a c	与薬方法 与薬法
		中心静脈内栄養を受けている患者の観察点がわかる	I II III IV	必修問題 基礎看護学 成人看護学	IV II IV	4 2 3	A B B	c f a	経静脈栄養法 経静脈栄養法 IVHの適用と管理
		皮内注射後の観察点がわかる	I II III IV	基礎看護学	II	3	C	a	薬剤の作用・投与量・投与方法(薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む)
		皮下注射後の観察点がわかる	I II III IV	基礎看護学	II	3	C	a	薬剤の作用・投与量・投与方法(薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む)
		筋肉内注射後の観察点がわかる	I II III IV	基礎看護学	II	3	C	a	薬剤の作用・投与量・投与方法(薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む)
		静脈注射の実施方法がわかる	I II III IV	必修問題 基礎看護学	IV II	4 3	B C	a c	与薬方法 与薬法
		薬理作用をふまえて静脈内注射の危険性がわかる	I II III IV	基礎看護学	II	3	C	a	薬剤の作用・投与量・投与方法(薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む)
		静脈内注射実施中の異常な状態がわかる	I II III IV	基礎看護学	II	3	C	a	薬剤の作用・投与量・投与方法(薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む)
		抗生物質を投与されている患者の観察点がわかる	I II III IV	基礎看護学	II	3	C	a	薬剤の作用・投与量・投与方法(薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む)
インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる	I II III IV	必修問題 基礎看護学 成人看護学	IV II IV	4 3 3	B C I	a a a	与薬方法 薬剤の作用・投与量・投与方法(薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む) インスリン療法、経口糖尿病薬の服薬指導		